

光明灯をライトアップして、幸福を呼びましょう！

2015年を迎え世界各国では新年の雰囲気溢れていたことに対して、中華圏ではこれから春節(旧暦の正月)を迎えるため、おせち料理・お供物・年末の大掃除など新年を迎える準備がいよいよ始まります。新年を迎える大切な準備の一つとして、台湾の仏教・道教に従い多くの人が行う『点光明灯(光明灯に明かりを灯す)』という宗教的な風習があります。



お祀りすると知恵が授かるといわれのある台北の有名寺院「龍山寺」の「文昌帝君」の隣に林立する光明灯のライト。

仏教ではライトがお祈りに使われます。神様にライトをお供えするのは「お供えした光で自分の人生を照らしてもらい、光に導かれながら自分の進路を切り開き、まるで神様に守られている」という意味があるからです。神前にお供えしたライトは「光明灯」と汎称され、その代表的な種類には『太歳灯』『財神灯』『文昌灯』『薬師灯』といったもの

があり、またお寺によって名称や祈る内容が異なります。例えば、商売繁盛や金運を祈願したい方は『財神灯』、一年

間の健康や病気平癒を祈願したい人は『薬師灯』、学業成就や試験の合格祈願を希望する方は『文昌灯』で知恵を授かるように願うでしょう。その中でも絶対忘れてはいけないのは『太歳灯』です。道教の『太歳』という神様は木星または年神として、人間世界の吉凶禍福を司ると言われており、自分の干支年になると今年は「犯(冒瀆する)太歳」という考えで、『太歳灯』を灯して一年の無事を祈願する習慣があります(安太歳)。とにかく台湾人は新年を迎えるときに、その年、自分が不安に感じていることや、幸運を招きたいことに合わせた光明灯を灯す習慣があります。

お寺で光明灯をお供えすると、そのお寺ではお供えをした人々に対して毎月旧暦の1日と15日に経文を読み、お祈り儀式を行うなどお祈りをします。但し、有名なお寺で光明灯をお供えするのは一苦勞ですね。なぜなら申込み希望者が多すぎるため大行列ができ、数日間にわたり順番を待つ覚悟がしなければならないからです。



「龍山寺」では申込み開始後、まるで辺りは椅子売場の様子に変化。名前を記しされた椅子の大行列は世界でただ唯一の光景ですね。